MOMA IBARAKI

茨城県近代美術館

美術館だより

No.129
Oct 17, 2024

Contents

1　企画展「没後100年　中村彝（つね）展――アトリエから世界へ」より（近代美術館）
2-3　企画展「没後100年　中村彝展――アトリエから世界へ」（近代美術館）
4　企画展「猫を愛（め）でたい」（五浦美術館）
5　企画展「幻視する風景－藤田志朗の世界」（五浦美術館）
6-7　企業パートナーシップ事業
8　インフォメーション

茨城県近代美術館
「没後100年　中村彝（つね）展――アトリエから世界へ」より

《花》1923年　当館蔵

《朝顔》1923年　郡山市立美術館蔵

《カルピスの包み紙のある静物》1923年　当館蔵

1923年9月1日、未曾有の被害をもたらした関東大震災が発生しました。多くの命が失われた中で、肺結核に冒されて明日をも知れぬ自身が生かされたことの意味を、洋画家・中村彝は重く受け止めます。そして生かされた命を意義あるものにするには絵を描く以外に道はない、と覚悟を新たにした彝は、壁が崩壊して未だ仮普請のアトリエで静物画の制作に専念し、僅か数ヶ月の間に次々と作品を描き上げました。

ここに挙げた3点は、中でも彝の構想の深化のほどがうかがえる力作です。斜めに傾いた壁の前に台を置き、鮮やかな黄色の花瓶にアネモネを挿して描いた《花》。壁の前に緑色や赤色の布を垂らして複雑な構図をつくりだした《朝顔》。そして、現実世界をそのままに描いてきた彝が初めてキュビスム風の構成的な画面を試みた《カルピスの包み紙のある静物》。翌年12月24日に37才の若さで亡くなるとは思えない、気力がみなぎった静物画の数々です。

［近代美術館　首席学芸員　吉田衣里］

茨城県
近代美術館

企画展　没後100年　中村 彝（つね） 展――アトリエから世界へ

彝は、何を見たのか。そして、何を描いたのか。

会　　期：2024(令和6)年11月10日[日]～2025年(令和7)1月13日[月・祝]
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：月曜日及び12月29日[日]～1月1日[水・祝]
※1月13日[月・祝]は開館
入 場 料：一般1,360(1,240)円／満70歳以上680(620)円／
高校生1,130(980)円／小中生550(420)円
※(　)内は20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方は無料
※冬休み期間を除く土曜日は高校生以下無料
※11月13日[水]茨城県民の日はすべての方無料
※12月24日[火]は満70才以上の方は無料
主　　催：茨城県近代美術館
特別協力：中村屋サロン美術館
後　　援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／
産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／
日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／
読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送
助　　成：芸術文化振興基金
協　　賛：株式会社常陽銀行
※本展はパートナー企業からの支援を受けています。

展覧会の概要

個性豊かな美術家を輩出した大正時代。その時代を代表する洋画家の一人にして、水戸市出身の中村彝（1887-1924）を、当館では重要な作家として位置付け、コレクションの充実を図ってきました。本展は、彝の没後100年を記念し、当館としては約20年ぶりに開催する大規模な回顧展です。

当館のコレクションはもとより、重要文化財《エロシェンコ氏の像》(1920年、東京国立近代美術館蔵）をはじめ、初期から晩年までの代表作のほか、約半世紀ぶりに公開される作品など、約120点が一堂に会します。本展では作品の他に関連資料も展示して、彝の作品における西洋美術作品からの影響、支援者と彝との交流などを軸に、作品が制作された背景を探りながら、彝が実際に何を見て、何を描こうとしたのか、その実像に迫ります。

セザンヌに学んだ静物画 ――

中村彝《静物》1913～1914年頃

『フュウザン』第3号（1913年2月）に掲載されたポール・セザンヌ「静物」(原色版)

制作にあたって、彝はセザンヌの静物画のモチーフに似た食器や瓶を集め、まずは自身のアトリエにセザンヌの静物画の世界を再現しました。それをキャンバスに落とし込みながら、セザンヌ作品の真髄を摂取しようと努めました。

みどころ

図版から学んだセザンヌ作品

彝は、ポスト印象派の画家ポール・セザンヌ（1839-1906）から多大な影響を受けたことが知られています。しかしながら、彝がセザンヌの油彩画を実際に見たことは恐らくありませんでした。

なぜなら彝が活躍した大正時代には、西洋の美術作品を展示・公開する美術館が未だ無く、海外の美術作品自体、国内にはごく僅かしかなかったからです。そのため当時の美術家たちは、輸入書の取り扱いがある書店に通い詰め、海外で出版された美術書や画集を入手し、それら書籍を通して西洋の美術家について、そして作品についての知識を得ました。

彝自身は、作品が売れたお金でレンブラント（1606-1669）などの高価な画集を購入し、手垢で黒くなるほど繰返し見ていたといいます。とはいえ当時の書籍や雑誌に掲載された図版の多くはモノクロで、原色版は書籍や雑誌の巻頭などに僅かに付される程度でしたが、彝は限られた情報をもとに、レンブラントの自画像やセザンヌの静物画に学び、自身の制作に生かしました。

彝が衝撃を受けたルノワール《泉による女》

印象派の画家オーギュスト・ルノワール（1841-1919）も、彝が影響を受けた画家の一人です。1915年、伊豆大島に滞在していた彝のもとに、かねてより画集を見るなどして憧れていたルノワールの作品が、なんと東京で展示されるという朗報が聞こえてきました。その作品《泉による女》(1914年）は、現在の大原美術館の礎を築いた大原孫三郎が、洋画家・満谷国四郎を介してルノワールに直接制作を依頼したもので、1914年、完成した作品が洋画家・安井曾太郎によって日本に持ち帰られました。体調の回復をまって急ぎ帰京した彝は、早速会場を訪れ、作品の前に何時間もたたずんでいたといいます。

ルノワール作品の衝撃 ――

《泉による女》に心奪われた彝は、自身でも驚くほど画風が一変しました。その影響のほどは、《幼児》に描かれたやわらかな布の表現にも明らかです。

中村彝《幼児》1915年

オーギュスト・ルノワール
《泉による女》1914年
公益財団法人大原芸術財団
大原美術館蔵

支援者・洲崎義郎との深い絆

肺結核に冒され、生涯の多くを病床で過ごさざるを得なかった彝が、そうした中でも充実した制作活動を送ることができたのは、幾人かの良き支援者と多くの友人に恵まれたためでもありました。

中でも、新潟県・柏崎に住む洲崎義郎（1888-1974）は、制作や私生活の悩みを打ち明け合える、心の友とも言うべき存在でした。彝の健康を気遣って頻繁に彝の好物を送り、金銭的にも支援した洲崎のもとには、お礼として贈られた彝の作品が数多く集まりました。それらの作品をもとに、洲崎は柏崎の地で展覧会を開催し、会場で積極的に彝の作品を解説するなどして、同地の人々にその魅力を伝えました。

洲崎と彝が交わした書簡は、約150通にも及びます。本展では、それら書簡や当時の資料を紐解きながら、心温まるエピソードと共に、作品制作の舞台裏についてもご紹介します。

洲崎義郎との交流 ——

洲崎義郎が所蔵するセザンヌの画集を羨ましがる彝に、洲崎は同画集を譲りました。驚喜した彝は作品《静物》（右図）を洲崎に贈り、受け取った洲崎も喜び、柏崎での展覧会に出品しました。

中村彝《洲崎義郎氏の肖像》1919年
新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵

中村彝《静物》1916年 当館蔵

アトリエの彝（1919年5月撮影）——

彝の背後の壁に《静物》（1919年、当館蔵）が掛けられており、その作品に描かれたポットや皿が、作品と同じように彝の右手側のテーブルに置かれています。

友人たちによる顕彰活動

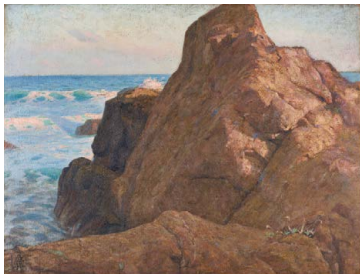
1924年12月24日、中村彝は37歳でこの世を去りました。その死を悼んだ友人たちは、すぐさま作品や遺品の整理を始め、遺作展の開催や画集の刊行に尽力し、遺稿や書簡を集めて『芸術の無限感』（1926年、岩波書店）に収録しました。20年にも満たない彝の画業が、私生活も含めて詳らかになっているのは、彼等の顕彰活動ゆえと言えます。

そして当館には、彝が1916年に東京の下落合に新築したアトリエが復元されており、彝が使用した家具などの遺品を内部でご覧いただくことができます。

彝の画業において、アトリエや遺品が重要であるのは、病ゆえに遠くに出掛けることが難しかった彝にとって、アトリエは制作の場であると共に、その内部空間そのものが絵の題材となったためです。彝の作品には、アトリエの壁や床、そして椅子やテーブルなどがしばしば描き込まれており、作品における重要なモチーフとなっています。本展では、これら家具類を作品とあわせて展示することで、彝の作品の秘密に迫ります。

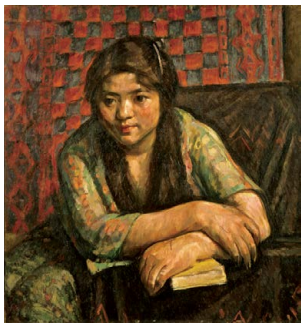
（近代美術館　首席学芸員　吉田衣里）

代表作より ——



中村彝《巌》
1909年 皇居三の丸尚蔵館蔵

中村彝《頭蓋骨を持てる自画像》
1923年
公益財団法人大原芸術財団
大原美術館蔵



中村彝《小女》
1914年 株式会社中村屋蔵

中村彝《エロシェンコ氏の像》
1920年 東京国立近代美術館蔵
※12月22日［日］から28日［土］は
写真パネルによる展示

天心記念
五浦美術館

企画展　猫を愛（め）でたい

会　　期：2024（令和6）年10月26日[土]～12月8日[日]
※会期中、一部作品の展示替えを行います。
前期:11月17日[日]まで／後期:11月19日[火]から
開館時間：午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで）
休 館 日：毎週月曜日
（ただし11月4日[月・振]は開館、翌5日[火]は休館）
入 場 料：一般950（820）円／満70歳以上470（410）円／
高校生710（590）円／小中生360（240）円
※（　）内は20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
※土曜日は高校生以下は無料
※11月13日[水]は茨城県民の日のため全ての方無料
※「にゃん割」として猫に関する物を身につけて来館いただくと、団体割引が適用されます。
主　　催：天心記念五浦美術館企画展地域連携実行委員会／
茨城県天心記念五浦美術館
後　　援：朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／
産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／
毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送

展覧会の概要

大きな目にとがった耳、しなやかな体躯にぷにぷにの肉球、思わずなでたくなる柔らかい毛並みの猫たち。見た目の愛らしさはもちろんのこと、神秘的で自由気まま、時に甘え上手な猫は、いつだって多くの人々を魅了してやみません。今ではペットとしての人気が定着し、アニメやキャラクターにも取り入れられるなど、猫ブームを巻き起こすほど、身近な存在となっています。

そのような猫たちは日本美術にも数多く登場します。江戸時代には猫と蝶や牡丹などの組み合わせが吉祥の画題として好まれたほか、鼠除けの猫絵として人気を博しました。浮世絵では歌川国芳作品に代表されるように、日々の暮らしの中でかわいがられる様や、さらには擬人化された姿で物語の化け猫としても登場します。また近代では猫をモチーフにした数々の傑作を残した菱田春草が有名です。このように古今東西を通じてさまざまな作家たちが、身近な動物である猫をモチーフに制作し、そのどれもが個性的な魅力で溢れた作品ばかりです。

本展では、歌川国芳等の浮世絵、菱田春草、下村観山ら日本美術院の作家たちが描いた日本画のほか、猫好きで有名な彫刻家・朝倉文夫と木内克の彫塑作品、現在活躍中の作家の作品まで、魅力的な猫の作品を多数紹介します。猫好きの方も、そうでない方も、今よりもっと猫を愛でたくなる展覧会です。

みどころ

浮世絵、日本画、彫塑作品など江戸時代から現代までの猫の作品100点をご紹介します。

前半では、日本の絵画の中で猫がどのように表現されてきたかをご紹介します。ここでは歌川国芳をはじめとする浮世絵や江戸時代の吉祥画、東京美術学校（現・東京藝術大学）の授業で学生が取り組んだ作品、日本美術院周辺の作家を中心とした近代の日本画などを展示します。五浦の地で研鑽を積んだ下村観山、菱田春草、木村武山の描いた猫の作品も一堂にご覧いただけます。後半では、堀文子、竹内浩一、國司華子らの作品をご紹介します。現代の作家の個性豊かな猫表現から、あらためて猫の魅力に気付いていただければ幸いです。

会期中は出品作家によるニャーティストトーク（アーティストトーク）や、講演会、みなさんから募集した猫ちゃんフォトを動画にして紹介する「うちの猫（こ）自慢」など、猫に関するイベントが盛りだくさんです。企画展と合わせてぜひお楽しみください。

［天心記念五浦美術館　首席学芸主事　木内智美］

朝倉文夫《つるされた猫》1909年
東京藝術大学蔵

木内克《親子猫》1960年 水戸市立博物館蔵

國司華子《オチツケ！》2020年 作家蔵

菱田春草《黒猫》1910年
播磨屋本店蔵

小茂田青樹《春の夜》1930年
埼玉県立近代美術館蔵

竹内浩一《戯画 女郎蜘蛛とねこ》
2005年 郷さくら美術館蔵

歌川国芳《見立東海道五拾三次 岡部 猫石の由来》
1847年 東京都江戸東京博物館蔵【前期展示】

天心記念
五浦美術館

企画展　幻視する風景ー藤田志朗の世界

会　　期：2024(令和6)年12月14日[土]
～2025(令和7)年2月11日[火・祝]
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：毎週月曜日
(ただし、1月13日[月・祝]は開館)、**12月29日[日]～1月1日[水]、1月14日[火]**
入 場 料：一般360(290)円／満70歳以上180(140)円／
高校生240(170)円／小中生170(110)円
※(　)内は20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
※12月28日、1月4日を除く土曜日は高校生以下は無料
※12月21日[土]は満70歳以上の方は無料
主　　催：茨城県天心記念五浦美術館
後　　援：茨城新聞社／北茨城市／北茨城市教育委員会／つくば市／つくば市教育委員会／筑波大学

展覧会の概要

つくば市在住の藤田志朗(1951-)は創画展の中心作家として活躍する一方、1985年から30年以上にわたって筑波大学で後進の育成にも務めてきた日本画家です。1997年以降はうしく現代美術展等へ出品し、また茨城県美術展覧会の運営にも尽力するなど、県内の美術振興にも貢献してきました。

日本画家であった両親のもと京都に生まれた藤田は、1980年に東京藝術大学大学院を修了し、その翌年には第8回創画展で初入選を果たします。それ以降、藤田は創画展を舞台に発表を重ね、打ち捨てられた機械、荒涼とした海景を中心とする心象風景による作風を確立します。2000年代に入ると、藤田の作品はより洗練された月夜の海景シリーズへと展開します。さらに2011年３月の未曾有の災害をもたらした東日本大震災の発生を契機に作品が変化し、画面には大きく描かれた月とその存在に呼応する無数の花が表されるようになります。

本展では、初期作品から近作まで代表作を中心に紹介し、40年を超える画業を振り返ります。

みどころ

・創作の軌跡をたどる、作家最大規模の回顧展

本展では創画展に発表した大作を中心に、初期の代表作《予感》から、充実期の《時漂》、新展開を見せる《月になる花》、近作の《宙》まで、約30点の作品によって作風の変遷をたどります。

・幻想的心象風景の世界に浸る

藤田の初期の作品は、対象のクローズアップや極端な遠近法で描かれ、人工物を捉えたリアルな描写と重厚な質感表現が重なり合い、独自の幻想世界へと鑑賞者を誘います。また、近年繰り返し描いている華やかな、月と花が織りなす一連の作品は、浄土を思わせる仏画のような荘厳さをたたえ、新たな境地を見せてくれます。変化する作風の中でも一貫して表されてきた独特の心象風景をお楽しみください。

・筑波発、日本画教育の実践

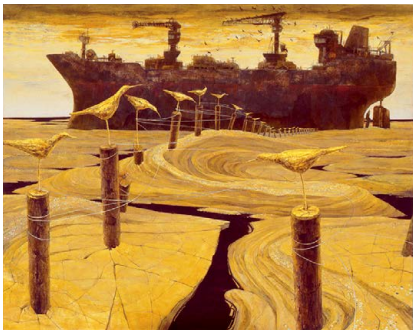
戦後、茨城県内唯一の日本画の専門教育機関として発足した筑波大学の日本画コースからは1987年から今日に至るまで、多くの日本画家や専門家が輩出されています。本展では、2016年に筑波大学で藤田が行った湯島聖堂孔子像復元プロジェクトの一環として制作した作品も展示し、32年に及ぶ藤田の日本画教育の一端もご紹介します。

［天心記念五浦美術館　主任学芸員　永宮勤士］

《予感》1984年 個人蔵

《赤い海》2006年 個人蔵

《時漂》2008年 個人蔵


《鳥夢―海》1995年 茨城県立取手松陽高等学校蔵

《月になる花》2015年 個人蔵

《行く道》2020年 個人蔵

MOMA IBARAKI

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

当館のパートナー企業の皆様は、地域社会への貢献を理念に掲げ、より良い社会づくりに積極的に取り組んでおられます。その取り組みの中から文化芸術に関連した事例を2回に分けて紹介させていただきます。
今回は、プラチナパートナー企業のご紹介です。

株式会社常陽銀行

当行およびめぶきフィナンシャルグループは「地域とともにあゆむ価値創造グループ」を長期ビジョンとして掲げ、持続可能な地域社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする地域の全てのステークホルダーの皆さまの課題に寄り添い、ともにあゆみ解決することで、新たな価値を創り続けてまいります。

協賛金贈呈の様子

環境負荷の低減に取り組み、効果の一部を地域に還元

【JOYO GXプロジェクト】

電力使用量や紙資源消費量などの削減目標を設定し、全役職員がCO_2排出量の削減に取り組んでいます。2023年度の本取組みによるコスト削減効果の一部を、水戸ホーリーホックのGX推進事業や森林・林業の整備・育成を行う団体、環境保全基金に協賛・寄付し、地域の脱炭素取り組みを後押ししています。

常陽藝文センター

地域の芸術・文化振興と普及活動

【常陽藝文センター】

常陽藝文センターは、常陽銀行の創立50周年記念事業の一環として、1982年3月に設立、翌1983年7月から本格的に活動を開始した文化財団です。以来、「芸術・文化を通じて潤いのある郷土づくり、豊かでゆとりある個人生活づくりに寄与する」ことを目的に、郷土文化の掘り起こしや文化の普及活動など幅広い事業を展開しています。

関彰商事株式会社

奨学金制度、募金活動、地域イベントへの協賛、ボランティア活動など、様々な角度から社会貢献活動に取り組み、これからも「地域の皆様と共に生きる企業」であり続けます。

江崎玲於奈賞に単独協賛

ノーベル物理学賞受賞者江崎玲於奈氏の功績を讃えて創設された本賞は、ナノテクノロジーの分野における研究業績を顕彰し、科学技術振興に寄与するために、茨城県が創設した賞です。弊社は地元企業として、2004年の初回からこの賞を単独協賛するとともに、「科学技術に興味を抱く若者の育成・支援」とういう目的のもと、県内の高校生を対象とした受賞者の研究室見学に対しても協賛しております。

所蔵美術品による企画展の開催

芸術文化活動の振興・豊かな地域文化の発展を目的として、茨城県陶芸美術館へ弊社所蔵美術品を貸与。企画展の開催に協力・協賛いたしました。「セキショウコレクション」の展示を通して、地域の皆さまが芸術に触れる機会を提供しています。

キッズアート体験

筑波大学との芸術分野における連携活動では、2016年から子ども向けイベント「キッズアート体験」を主催。芸術を学ぶ筑波大生と共に子どもたちがアートに取り組む本イベントは、毎年好評を博しています。

<中村彝REMEMBERプロジェクト>

当館南側の中村彝アトリエの周辺エリアをもっと魅力ある憩いの場にしようと、パートナー企業と当館で組織する「美術館運営支援協議会」が実施したクラウドファンディングは、県内外の多くの個人、企業・団体の皆様から目標額を大きく上回る10,815,000円のご支援をいただき、本プロジェクトは成立となりました。リニューアルの完成は来年3月を予定しています。御期待ください！

ザ・ヒロサワ・シティ

ザ・ヒロサワ・シティには「下館ゴルフ倶楽部」、テーマパーク「ユメノバ」など様々な施設がありますが、今回は「廣澤美術館」についてご案内をさせて頂きます。

廣澤美術館は本館分館を合わせますと20の展示室からなります。当館では茨城県出身の作家、例えば横山大観、板谷波山などの作品を中心に、その作家とかかわりがあった作家の作品などを主に蒐集しており、本館は年5回から6回程度企画展を開催、分館などの展示館ではそれぞれ季節ごとに展示替えをしております。

廣澤美術館本館は設計を隈研吾、ランドスケープデザインを宮城俊作、日本庭園を齋藤忠一、エントランス門を挾土秀平、美術館名を中村稔、庭園名を中西進（敬称略）に依頼しました。来館者からは、巨石に覆われた建物とそれを囲む3つの庭の構成を楽しんで頂いており、特に日本庭園の、目の前に広がる池の向こうの枯山水と流れる水の音に心落ち着き精神が清らかになると仰って頂いております。

現在本館では、11月24日まで棟方志功展（後期）を開催しております。代表作である板画を中心に、肉筆画や陶芸作品、写真なども併せて展示をしており、庭園を回遊しながら四季折々の花もお楽しみ頂けるようになっております。

当館では、引き続き地元茨城の作家の作品を中心に企画展示をし、「茨城の宝」を再認識して楽しんで頂けますよう、またお子様にも美術品に身近に接することにより豊かな心を育んで頂きたいと願っております。

株式会社アダストリア

「ファッションのワクワクを、未来まで。」をサステナビリティポリシーとして掲げ、「環境を守る」「人を輝かせる」「地域と成長する」を重点テーマとして定めています。ファッション企業の強みを活かし、地域のお客さまや従業員にファッションを通してワクワクをお届けする活動を行っています。

ALCが手掛けた、
スタッフ制服

さまざまな業界、企業と新たなビジネスを実現する専門チーム「ALC」

アダストリアのB to B事業を手掛ける「アダストリア・ライフスタイル・クリエイション（以下、ALC）」が、「アクアワールド茨城県大洗水族館」のスタッフ制服を制作しました。スタッフ制服には魚の加工食品生産時に捨てられてしまうウロコを再利用した「コラーゲンヤーン」を原料としているサステナブル素材を使用し、職種ごとに求められる快適性や機能性にあわせたデザインを設計。水族館にいる海の生き物たちのユニークなオリジナルグラフィックをデザインに落とし込みました。働く人も来場者も笑顔になる制服を目指して、環境保全の意識、快適な機能性・見た目の華やかさにもこだわった制服が完成しました。

2024年5月に
「アダスポ祭り2024」を開催

ファッションの力で創業の地「水戸」を盛り上げる！「アダスポ祭り2024」を開催

アダストリアは、創業の地である水戸の皆さまに感謝をお伝えする「ADASTRIA BAZAAR!」を2022年よりアダストリアみとアリーナにて開催しています。2024年には、2日間で約6200名のお客さまにご来場いただきました。イベント会場では、アダストリアが協賛しているB.LEAGUE所属「茨城ロボッツ」、J.LEAGUE所属「水戸ホーリーホック」、S-V.LEAGUE所属「Astemoリヴァーレ茨城」と協業し、「アダスポ祭り2024」を実施。登壇者はアダストリアがコーディネートしたお洋服で登場し、競技の垣根を越えてファンの方々に楽しんでいただける交流イベントを行いました。ファッション企業ならではの取り組みで地元スポーツと地域を盛り上げます。

パートナー企業の皆様

常陽銀行
SEKISHO GROUP 関彰商事
hirosawa group ザ・ヒロサワ・シティ
ADASTRIA Play fashion!
近代美術館友の会
関東鉄道株式会社
AEON MALL
茨城交通
茨城県信用組合
心を込めて、信頼できるカーライフ 茨城トヨタ
Jayapet since1956
Lily Academy Group 学校法人 リリー文化学園
物流で人々を幸せに。 沼尻産業
Yakult 水戸ヤクルト販売株式会社

MOMA IBARAKI

INFORMATION

10月～2月のご案内

茨城県近代美術館

《企画展・関連イベント》

〈没後100年　中村彝（つね）展〉
11月10日［日］～1月13日［月・祝］

・講演会「中村彝と同時代の画家たち―岸田劉生、藤島武二、曽宮一念など」
講師：田中 淳氏（公益財団法人　大川美術館長）
日時：12月1日[日]　午後2時～3時30分
会場：地階講堂　定員：250名(要事前申込、参加無料)
・講演会「西洋絵画と中村彝」（友の会共催）
講師：三浦 篤氏（公益財団法人大原芸術財団　大原美術館長）
日時：12月7日［土］　午後2時～3時30分
会場：地階講堂　定員：250名(要事前申込、参加無料)
・学芸員による鑑賞講座「彝は、何を見たのか。そして、何を描いたのか。」
講師：吉田 衣里（本展担当学芸員）
日時：1月13日[月・祝]　午後2時～3時30分
会場：地階講堂　定員：250名(申込不要、参加無料)
・家族でわくわく　てんらんかい
11月16日[土]午前10時30分～11時30分　午後2時～3時　小学生+保護者15名程度
※要事前申込、要企画展チケット（土曜日は高校生以下無料）
・コンサート「百年忌記念 彝が聴いた音楽」
日時：12月24日［火］　午後2時30分～3時15分
出演：廣瀬 由香里（ピアノ）　内山 恭子（ヴァイオリン）
会場：1階エントランスホール
定員：150名（要事前申込、参加費無料、要企画展チケット又は半券）

〈キース・ヘリング展 アートをストリートへ〉
2月1日［土］～4月6日［日］

・美術館アカデミー
［キース・ヘリングとアメリカ1960年代～1980年代―アメリカン・ポップカルチャーとその周辺―］
講師：君塚 淳一氏（茨城大学教育学部　教授）
日時：2月9日[日]　午後2時～3時30分
会場：当館地階、講堂　定員：250名（要事前申込、参加無料）

《所蔵作品展　第1展示室》

〈日本の近代美術と茨城の作家たち 秋から冬へ〉
11月1日[金]～12月21日[土]

〈日本の近代美術と茨城の作家たち 冬から春へ〉
前期12月25日[水]～2月13日[木]

《所蔵作品展　第2展示室》

〈中村彝の仲間たち―大正時代の画家・彫刻家〉
11月1日[金]～12月21日[土]

〈ストーリー&ヒストリー〉
12月25日[水]～2月13日[木]

《アートフォーラム展示》

〈高校生特派員による「中村彝を見て、感じて、描いてみる」〉
11月1日［金］～1月26日［日］

《その他のイベント》

・家族でわくわくミュージアム
11月8日[金]午前10時30分～11時30分 乳児（1歳児）+保護者10名程度
会場：1階所蔵作品展示室他
・ようこそ！美術の森へ―学芸員と巡るコレクション
日時：11月16日[土]、12月21日[土]、1月18日[土]
各日とも午前11時～（30分程度）　会場：1階所蔵作品展示室
定員：なし（申込不要、要所蔵作品展チケット）（土曜日は高校生以下無料）

※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

《土曜講座》

時間：各日午後1時30分～
会場：2階アルスホール　料金：無料
10月26日[土]
・第7回「現代の陶芸アートシーン－活況あふれる造形表現の世界」
[講師] 名村 実和子（茨城県陶芸美術館副主任学芸員）
11月9日[土]
・第8回「猫を愛でたい」
[講師]木内 智美（茨城県天心記念五浦美術館首席学芸主事）
12月21日[土]
・第9回「中村彝の作品と生涯」
[講師]吉田 衣里(茨城県近代美術館首席学芸員)
1月11日[土]
・第10回「戦後茨城の日本画と藤田志朗」
[講師]永宮 勤士（茨城県天心記念五浦美術館主任学芸員）
2月8日[土]
・第11回「キース・ヘリング―アートをストリートへ―」
[講師]乾 健一（茨城県近代美術館学芸員）

《ギャラリー展》

9月25日[水]～10月6日[日]
・画業五十周年記念 齋藤 茂男展　【絵画】
10月8日[火]～10月14日[月・祝]
・第1展示室…MAX現代美術展10周年記念特別展　【総合】
・第2展示室…ヴィジュアル・コミュニケーション展2024－Relate：ここではないどこかで　【総合】
10月16日[水]～10月20日[日]
・第1展示室…装いと彩りと　【洋装作品・ステンドグラス】
・第2展示室…与那覇大智とアトリエあづま展　【絵画】
10月22日[火]～10月27日[日]
・第13回川村美術教室展　【絵画】
10月29日[火]～11月4日[月・振]
・茨城県高等学校総合文化祭 美術展覧会 写真展　【写真】
11月6日[水]～11月10日[日]
・第1展示室…写真展 記憶とつなぐ 若年性認知症と向き合う写真家の物語　【写真】
・第2展示室…第5回アートオブジェ陶磁器絵付展　【工芸】
11月12日[火]～11月17日[日]
・第40回MC展 筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群芸術学学位プログラム（博士前期課程）洋画・版画・日本画 作品展　【絵画・版画】
11月19日[火]～12月1日[日]
・つくばビエンナーレ「周縁の美学」展　【総合】
12月3日[火]～12月8日[日]
・第77回県南高等学校連合美術展　【絵画・彫刻】
12月10日[火]～12月15日[日]
・第28回取手松陽高校美術科展　【総合】
12月17日[火]～12月22日[日]
・第1展示室…障害がある人が創った作品展　【総合】
・第2展示室…Cas Me　【絵画】
1月15日[水]～1月19日[日]
・大日方真展－光と色彩に包まれた情景　【絵画】
1月21日[火]～1月26日[日]
・つくば市文化協会 第33回芸術展　【総合】
1月28日[火]～2月9日[日]
・令和6年度修了制作展 筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群 芸術学学位プログラム（博士前期課程）修了制作展　【総合】
2月11日[火・祝]～2月24日[月]
・令和6年度卒業制作展 筑波大学芸術専門学群卒業制作展　【総合】
2月26日[水]～3月2日[日]
・TANKEI EXHIBITION　【絵画】

茨城県天心記念五浦美術館

《企画展・関連イベント》

〈猫を愛（め）でたい〉
10月26日[土]～12月8日[日]

・講演会「猫はなぜ愛されるようになったのか？―〈化け猫〉から〈大切な家族〉へ」
講師：真辺 将之氏（早稲田大学文学学術院教授／早稲田大学歴史館館長）
日時：11月3日[日・祝]　午後1時30分～午後3時
会場：講堂　定員：114名　※要事前申込、要企画展入場券
・ニャーティストトーク（アーティストトーク）
講師：國司 華子氏（日本画家）　日時：11月16日[土]　午後1時30分～
講師：宮森 敬子氏（現代美術作家）　日時：11月24日[日]　午後1時30分～
講師：田崎 太郎氏（陶芸家）　日時：11月24日[日]　午後2時30分～
会場：企画展示室　※要企画展当日入場券、申込不要
・小泉館長によるギャラリートーク
日時：10月26日[土]、11月17日[日]　午後1時10分～
会場：企画展示室　※要企画展当日入場券、申込不要
・ニャラリートーク（ギャラリートーク）
展覧会担当者によるギャラリートーク
日時：12月1日[日]　午後1時10分～
会場：企画展示室　※要企画展当日入場券、申込不要
・ワークショップ「ふわふわを描こう」
日時：11月23日[土・祝]　午前10時～、午後1時30分～
会場：講座室　定員：各回20名程度　※要企画展入場券、当日先着順

〈幻視する風景－藤田志朗の世界〉
12月14日[土]～2月11日[火・祝]

・クロストーク
第1回＝藤田 志朗氏×小泉 晋弥（当館館長）
日時：12月14日[土]　午後1時10分～
第2回＝藤田 志朗氏×永宮 勤士（本展担当学芸員）
日時：1月19日[日]　午後1時10分～
会場：企画展示室　※要企画展当日入場券、申込不要

《その他のイベント》

・来て・見て・発見！アートツアー for kids
日時：11月2日[土]　午前10時～　会場：展示室、講座室
定員：小中学生と保護者5組（1組4名まで）
※要事前申込（先着順）、保護者のみ要企画展入場券
・第35回トワイライトコンサート
出演：小林 日和（ヴァイオリン）、永田 絵里子（ピアノ）
日時：11月2日[土]　午後5時～　会場：エントランスロビー
定員：200名程度　※要企画展入場券、当日先着順
・天心書斎障壁画ツアー
日時：12月7日[土]　午前10時～午前11時
会場：岡倉天心記念室　定員：30名　※要当日入場券、当日先着順
・大笑い！五浦寄席
出演：二松亭 ちゃん平（社会人落語家）、相模亭 とげ蔵（社会人落語家）
日時：12月22日[日]　午前11時～、午後2時～
会場：講堂　定員：114名　※要企画展入場券、当日先着順
・茨城県警察音楽隊ふれあいコンサート
日時：2月16日[日]　第1部 午前11時～午前11時25分
第2部 午前11時35分～午後0時
会場：エントランスロビー　定員：100名程度　※当日先着順

《映画会（五浦名画座）》

会場：講堂　定員：各回114名（当日受付先着順・申込不要）／無料
時間：午前の部9時45分～、午後の部1時30分～
・11月10日[日]　ねこ特集　午前の部「旧々ノ境〆」國司華子」18分、「こねこ」84分
午後の部「旧々ノ境〆」國司華子」18分、「ネコのミヌース」83分
・12月15日[日]　「トムとトーマス」110分
・1月12日[日]　「トキワ荘の青春」110分
・2月9日[日]　「市民ケーン」119分

※最新の情報は各館ホームページ等でご確認ください。

茨城県近代美術館
〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992
HP https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/

茨城県つくば美術館
〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358
HP https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/

茨城県天心記念五浦美術館
〒319-1703
北茨城市大津町椿2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711
HP https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中！詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。
○土曜日来館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます）　○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者　○国際交流事業として国外から本県に留学している方　○児童福祉施設、身体障害者更生援護施設、知的障害者援護施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）　○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）　○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）　○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース　友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

＜お知らせ＞

①今年度は5月にデッサン講習会、学芸員によるギャラリートーク、6月に春の美術鑑賞旅行を実施いたしました。現在、秋の美術鑑賞旅行（一泊二日）と海外美術鑑賞旅行の計画を進めています。他にも行事やイベントを計画しておりますので、会員の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。茨城県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金を現金でお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。また、茨城県近代美術館友の会ホームページからも申し込むことができます。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）までお願いいたします。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。
https://fmoma.com

Friend 茨城県近代美術館